放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 7年 3月 18日

事業所名 放課後等デイサービス れいる

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	0%	個室が少なく、クールダウンの場所の確保が難しい。 注意が行き渡るよう配置に気をつけ環境を整えている。	限られた環境の中で、役割を持った場所が設定できるよう検討します。
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	0%	資格や意識の違いがある。 個別に対応が必要なケースが増えると難しいと感じる。	スキルアップ研修等への参画で支援の不安を軽減し、自信につながれるようにします。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	17%	33%	50%	築年数が経過しているため安全に配慮している。 バリアフリー化はされていない。	常に危険箇所がないか環境整備を引き続き行い、子ども達に合わせた安全な環境を作ります。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	33%	67%	0%	個々の利用児の振り返りや計画に対する協議が不十分。	協議内容をより明確化し、必要なタイミングで話し合いの場を設定していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	33%	0%	家庭に寄り添った関係を心がけている。 可能な限り、要望への対応を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	玄関での掲示等で周知している。	玄関掲示の他にホームページでも閲覧できるようになっています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	50%	17%	第三者による評価は行っていない。	質の向上のため、外部への依頼か、内部別管轄か、客観的な評価の実施を検討したいと思います。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	自分が勉強になったことなどを他の職員に伝達している。 年1回は必ず研修に参加している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	0%	見直し時期を過ぎないように努めている。 必要に応じて面談を実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%	17%		アセスメント内容等の理解ができていない職員への習得を促していきます。

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	50%	50%	0%	課題等で取り入れている。話し合いがまだ十分ではないと感じる。よく話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	季節に合う活動などを積極的に取り入れている。子どもの成長に合わせて考えている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%	0%	長期休暇中は、平日設定しづらいことを組み込んでいる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	67%	33%	0%	新しい情報も組み込めるよう考えている。発達状態に合わせた課題や活動を取り入れている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%	0%	もっと細かく打合せができると思う。朝礼、昼礼を行い振り返り等しながら支援に繋げている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	33%	17%	必要に応じて、都度、問題点や気づきを話し合っている。	支援終了後や翌日の支援前に打合せを行っています。参加出来なかった職員への周知を徹底していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	0%		複写式の連絡帳で利用時の記録を共有し、課題等の記録も残し、日々振り返りをしています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	67%	33%	0%	相談支援員との連携を取っている。見直し時期を過ぎないように努めている。	計画の見直し時期には職員間で会議を開き、内容の検討をしています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	50%	50%	0%	きちんとした資料は手元にない。わからない。	職員への配布はしておらず、事業所閲覧として保管していました。職員への周知、内容の理解を促し、支援との繋がりを共通認識していきます。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	50%	50%	0%		児童発達支援管理責任者と児童の担当で参加しています。	
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	83%	17%	0%	学校や相談支援員との関係性を切らさないようにしている。変化や困り事など共通理解をするようにしている。		

関係機関や保護者との連携

22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17%	17%	67%	現在、受入れはしていない。 よくわかっていない。	看護師の配置も出来ておらず、 現在、受入れが出来ていません。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	17%	33%	50%	情報共有ができて移行した児童は少ない。(出来ている児童もいる)	会議の開催がない場合でも、児童発達支援事業所の終了時の計画を拝見することで情報の共有をすることもあります。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33%	33%	33%	中学部への移行の際は、ケア会議を行い、情報の共有をしている。	小学生を対象としているため、 中学進学時に移行する事業所の職員と話し合う場を設けています。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	67%	0%	希望ヶ丘学園主催の研修に参加している。(個別助言は受けていない)	
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	33%	67%	公共の施設を利用した際に場の共有をすることはあるが、交流の機会はない。	交流する機会の設定は行っていません。 必要に応じて今後検討していけたらと思います。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	83%	0%	担当職員が参加している。	子ども支援部会の放課後等デイサービス連絡会へ、企画内容に応じた職員が参加しています。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%	0%	連絡帳や送迎、お迎え時に伝えている。 日々の気付きを職員間で共有している。 感覚や関心を引き出せるよう会話から抽出している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	33%	33%	33%	必ず、会話等で傾聴の姿勢を大切にしている。 トレーニングとしては行っていない。	相談内容にアドバイスさせてもらうことはありますが、トレーニング等の実施は行っていないので、 今後、検討していきます。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	17%	0%	不明瞭なことを耳にした時は確認を取っている。 面談時、変更時に行っている。	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%	0%	出来る限りでの対応をしている。 学校からの情報も踏まえ対応している。	

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	33%	33%	法人内の児童部門全体で行う交流会を実施しているのみ。	親子で参加できる交流会の開催は行っていますが、保護者会等の実施は出来ていなかったのでアンケートを取りつつ、開催を検討したいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	責任者へ報告し、迅速で適切な対応を努めている。職員間で必ず共有している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	年に3回の広報を発行し、連絡帳にて活動の様子を写真等でお知らせしている。	インスタグラムの活用ができていないので、発信の仕方を考えていきたいと思っています。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	重要書類は鍵付き書庫に保管し、不特定多数の目に触れないよう配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	83%	17%	0%	カードや筆談など視覚的なやり取りをしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	50%	50%	招待するような機会がない。	地域に開かれた事業運営の方法を思案していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	67%	17%	17%	マニュアルの作成はされているが、内容の周知はされていない。	研修、訓練等がマニュアルに沿って行われていることの周知、閲覧方法も見直していきたいと思っています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	地域特有の訓練も含め、避難訓練の実施を行い、実施内容を三二広報でお知らせしている。(地震、水害、火災)	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	0%	法人内研修やスペシャルラーニングの活用で対応している。	委員会を主軸に研修の実施、チェックシートを使用しセルフチェックも行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	50%	50%	0%		必要な状況になる場合、事業所内で十分に協議していきます。

42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17%	83%	0%	保護者からの要望に対応している。 意思の指示書の確認はない。	アレルギーチェックの結果表と保護者からの聞き取りで、把握をして対応しています。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	50%	50%	0%	口頭での共有になっている。	振返りをしたヒヤリハットを記録に残し、定期的にファイリングしています。